

病気を治すのは各人の自然治癒力のなせる技なのだ。それ故、薬害を避けるためにも、薬の乱用は厳に慎まなければならぬ。然るに、わが国では六兆円もの大金が薬価として支出されており、試算では半分の三兆円の薬は捨てられている。薬を捨てた人の中には、医者に悪いから薬は貢つたが頭から飲む気はない、という人すら居るのである。

何事によらず、素人の直感は時として恐ろしいほど目的を射ていることがある。病気になつたら、診断は専門医に任せると、薬を飲むか飲まないかは自己の判断を優先させると言う人がいるが、これほど薬物療法の限界を見抜いた見識はないのかも知れない。現に殆どの場合、薬を

薬害から身を守る

投薬行為が医師に独占的に委ねられているのは、薬が毒物であり害があるからであり、一步間違えれば、薬害だけが残るからである。無論、薬の中には害

捨ててしまつても、ちょっと瘤状を我慢するだけでは治つてしまふ。“病を癒すのは時間にして薬に非す”とも言つうが、薬で時間稼ぎをしてはならない。

症状は病気を
治す生体反応

症状は異常を教えてくれるだけではなく、病気を治す上で必須の生体反応が起きたことを示している。例えば、捻挫や打撲は誰にも馴染み深いものであるが、腫れたり痛んだりするのを有難いと思う人はいないだろう。しかし、腫れたり痛んだりするのは、生体に備わった優れた防御機構の一つで、病気を治す作業が始まつた証である。

反面誰でもどんな些細な症状でも嫌なものである。その上、病気が治れば自ずと症状もなくなることを知っているので、症状がなくなることを願うのは当然である。これが対症療法薬の普及を促し、治療効果が中途半端でも、少々副作用があつても、ないよりは増しと考えたのである。それが時代の推移に連れ

し、病気を治りにくくする可能性を指摘したい。例示すれば、痛み止めとして汎用されている非ステロイド系鎮痛消炎剤の作用機序は、前に述べた生体の防御反応を抑制することで痛みを和らげる。また他に類を見ない強い消炎効果があるステロイド剤は、副作用のため使用頻度は

自然治癒力を見直そテ

— 対症療法で解決しない問題 —

サナモア光線協会
サナモア中央診療所

医学博士 宇都宮 光明

うことの神秘さを知つて貰いたいためである。意外かも知れないと云ふのが、今でも大半の病気はどのようにして起こり、どのようにして治るのか、誰にも分からぬことだらけなのだが、少なくとも自然治癒力を軽んじてはならない。

サナモア光線協会
サナモア中央診療所
医学博士 宇都宮 光明

落ちたと言つても、今も皮膚科ではアトピー性皮膚炎を始めとする半の皮膚疾患で使われている。問題は即効性のある薬が使用されるとよくなつてから、却つて経過を遷延させ、慢性化させたのではないかと言つことである。

して、サナモア光線療法の普及を志してから、既に60年の歳月が流れた。私が父の後を継いで、この道に入つて15年が過ぎようとしている。この間の様々な経験を通して、サナモアの目標は、病人の自然治癒力を増す目標は間違つていいことを実感している。この点は、病気を主なターゲットとした現代の医療の流れとは立場を異にするが、サナモアの効果は多くの人々によって実証され、綿々と継承されていく。

あけまして
おめでとう
ございます

平成五年
元月

サナモア光線協会

(六日より営業します。)



一般参賀

宇都宮義真撮影



人生最大の敵

ドイツに“人生は戦いなり”

(Das Leben heißt Streben)
という諺があります。このよう

に人生はよく戦争に例えられます。病気についても、例えば結核菌という名の目に見えない敵が絶えず飛び回っていて、取り付く相手を捲して音もなく爆弾の雨を降らしています。未だに原因の分からぬ難病、奇病も数多くあります。その中で身体は自己を守るために悪戦苦闘を強いられています。

人生という勝つか負けるかの戦場で、武器を忘れては問題になります。武器には、体力、気力、知力など様々なものがあります。そのあらん限りを活用して、あらゆる面で大いに戦果を拡張しなければなりませんが、あり余る才能を持ちながら病弱なため落伍者になる人も決して少なくありません。

「男一匹、病気さえしなければ何とかなる」といわれます。如何に知力に恵まれていても、病気になつては人生の勝者にはなれません。人生という航海で

最大の敵は病気なのです。

安全保険

来ます。

あらゆる生物、あらゆる生命のものは光線です。この光線を病気の予防、治療に応用したのがサンモア光線療法です。古来から“予防は治療に優る”と言われますが、治療の理想は予防保障も、自國に自國を守る力がなければ真の国防にならないよう

に、最新の医療設備があつても、身体に身体を守る力がなければ効果は半減以下になってしまい

ます。

サンモア光線療法は、太陽光線の作用を応用した治療法で、身体に働き掛けて身体に身体を守る力を付与する健康法を兼ねた治療法です。従って、何時でも使用出来ますし、甲の病気には効くが、乙には効かないといふ不徹底な治療法ではありません。慢性病には良いが急性病には悪いという様なものでもありません。内科にも外科にも良い、大人にも子供にも良い、女子にも男子にも良い治療法です。人間ばかりではありません。犬や猫や馬や牛の様な動物にも効果があります。草や木にも応用出

事になつても早く気が付けば、素人でもバケツ一杯の水で消せますが、完全に火の手があがってしまうでしょう。病気もサンモアがあれば、火事を消防士の来る前に消し止めるように、大事に至る前に治すことが出来るのです。

仕事も大切です。しかし健康はより以上に大切です。サンモアは科学的な根拠に基づく合理的な治療法です。昔、武士が貧乏のどん底にあつても、万一の準備に、決して甲冑や刀剣を離さなかつたように、今日のように生存競争の激しい時代には、各家庭にサンモアを取り揃えて欲しいと思います。そして自分と家族を充分武装して、第一線で活躍されることを切望します。

宇都宮 義真

自己を武装せよ

我が家にサンモア

ります。

病気と治療の関係は、戦争に例えれば攻撃と防御のようなもので、防御に弱点があれば勝敗の帰趨は直ぐにも決まってしまいます。防御が手薄で下手をすれば、一生病苦に泣くことにな

ります。
病気は火事に似ています。火事になつても早く気が付けば、素人でもバケツ一杯の水で消せますが、完全に火の手があがつてしまえば、専門の消防士が設備の整った消防自動車に乗つても心配は要らないと思つてい

ります。病気もサンモアがあれば、火事を消防士の来る前に消し止めるように、大事に至る前に治すことが出来るのです。

仕事も大切です。しかし健康はより以上に大切です。サンモアは科学的な根拠に基づく合理的な治療法です。昔、武士が貧乏のどん底にあつても、万一の準備に、決して甲冑や刀剣を離さなかつたように、今日のように生存競争の激しい時代には、各家庭にサンモアを取り揃えて欲しいと思います。そして自分と家族を充分武装して、第一線で活躍されることを切望します。

病気と治療の関係は、戦争に例えれば攻撃と防御のようなもので、防御に弱点があれば勝敗の帰趨は直ぐにも決まってしまいます。防御が手薄で下手をすれば、一生病苦に泣くことにな

ります。
昭和十三年四月一日発行
—自己と一家を武装せよ—
—電磁波—

病気と治療の関係は、戦争に例えれば攻撃と防御のようなもので、防御に弱点があれば勝敗の帰趨は直ぐにも決まってしまいます。防御が手薄で下手をすれば、一生病苦に泣くことにな

ります。
病気と治療の関係は、戦争に例えれば攻撃と防御のようなもので、防御に弱点があれば勝敗の帰趨は直ぐにも決まってしまいます。防御が手薄で下手をすれば、一生病苦に泣くことにな

新
春

原因不明の腹痛

平成二年の春、八十歳ばかりの主人が脳出血で倒れてから、仕事に看護にと、気の抜けない張り詰めた日々が続きました。当然、ストレスも溜まりますが、そのせいもあつてか、突然、激しい腹痛に悩まされました。

時の経験を「原因不明の急な腹痛・痛み」という見出しで、平成三年十月一日発行の「健康と光線」に掲載しましたが、その後にも繰り返し同じような腹痛を起こし、その折りに足裏へ照射することが如何に大切か、身をもつて体験しましたのでその経緯を報告します。

症例は私自身で七十六歳になります。昨年、激しい腹痛でひどい目に遭ったことは前述した治療例報告で述べましたが、それからはすっかり腹痛のことは忘れていました。しかし、数ヶ月経つた或る日、再度、同様な腹痛に見舞われたのです。その上、腹痛を起こす間隔が、それから一ヶ月、二十日、十五日、十日、五、六日と、段々と縮まってきました。いよいよ悪くなつたか、と私は独りで合点しながら、激しい腹痛を歯を食いしば

ガス詰まりか

このことを他人に話しますと、十人が十人、病院で検査した方がよいと忠告してくれます。その都度、私は気になりながらも笑って済ませていました。そんな或る日、主人の主治医の先生が往診に来てくださった機会を捉えて、私の症状を初めて話し相談に乗って頂きました。先生は、どれどれと気楽に応じて下さり、腹部の診察を様々な姿勢で丁寧にして下さいました。丁

て我慢し、樂になるまで夜となり長時間に亘つて照射しているとあの激痛が嘘のように何時も去ってしまうからです。

私は腹痛が起きた二日前から、平常の排便でなく、極少量の軟便や下痢便になることに気付いていました。そして三日目頃に右の下腹部の盲腸辺りがカチカチの饅頭のようになり痛み始めます。その度に癒着を起こしたのか、閉塞したのか、脱腸だらうか、あるいは単なる糞塊まりなのか、悩みながらも痛みを堪えて来れたのは、この四年間、光線療法の力の偉大なことを体験して來たからこそ出来たことです。実際治療に没頭しさえすれば、やがて何事もなかつたように平常の状態に戻りました。

足裏への照射を見直す

育美健康光線療研 前田ミサ

て我慢し、樂になるまで夜となり
く昼となく照射し続けました。
長時間に亘つて照射していると
あの激痛が嘘のように何時も去つ
てしまふからです。

私は腹痛が起きる二日位前か
ら、平常の排便でなく、極少量
の軟便や下痢便になることに気
付いていました。そして三日目
頃に右の下腹部の盲腸辺りが力
チカチの饅頭のようになり痛み
始めます。その度に、癒着を起し
たのか、閉塞したのか、脱腸
だろうか、あるいは単なる糞詰
まりなのか、悩みながらも痛み
を堪えて来れたのは、この四十
年間、光線療法の力の偉大なことを
体験して來たからこそ出来たことで
す。実際治療に没頭しさえすれば、
やがて何事もなかつたように平常の状
態に戻りました。

度、痛みのない時でしたが、腹を強く圧迫しても痛みはなく、しこりもありません。先生は、原因は糞詰まりですかな、とおしゃるだけで、診断に結びつく所見は得られなかつたようです。それから数回、同じような症状を起こしましたが、ある時ふと十年程前の待合室での会話を思い出したのです。東京の叔父ですと言つて、近くに住んでいた姪に当たる人が老人を連れ来てきましたが、他の患者の治療をしていたので、待合室で暫く待つて貰つた時のことです。

ません。腹痛を起こすと、右下腹部の餃頭のようになった所を目掛けて遮二無二照射し、そこが楽になると、日頃の肩凝りに気を取られてそこを照射し、次は背中に照射しても、足裏に照射することとは忘れていました。よし、今度起きたら、先ず足裏を照射して、それから全身照射だ。数日後、例の症状が始まりました。触って見ると右下腹部が硬くなり出したので、餃頭が出来上がり腹痛を起こさない内に早めに足裏の照射を始めました。次に足首、膝、腰、臍を中心と腹と照射しましたが、

私の生き甲斐

主人が病に倒れてから三年近く、不規則な生活を強いられ、胃腸の運動を支配する自律神経のバランスもややもすると乱れ、腹痛の原因になつてゐるのかも知れません。時に気持ちに負けそうになりますが、そんなことでどうする、と打ち消しながら、仕事に懲められ人生に立ち向かっています。

ません。腹痛を起こすと、右下腹部の餡頭のようになつた所を掛けで遮二無二照射し、そこが樂になると、日頃の肩凝りに氣を取られてそこを照射し、次は背中に照射しても、足裏に照射することとは忘れていました。よし、今度起きたら、先ず足裏が照射して、それから全身照射だ。餡頭が出来上がり腹痛を起さない内に早めに足裏の照射を始めた。次に足首、膝、腰、臍を中心へ腹と照射しましたが、餡頭は段々大きくなり、痛みも和らいで来ました。小さなガスが出来ました。患部が大部分軟らかくなら、痛みも和らいで来ました。我慢出来ず患部に集中的に照射しました。小さなガスが出ました。患部が大分軟らかくなり、痛みも段々増して来ました。我慢出来ず患部に集中的に照射しました。患部が大分軟らかくなつて、痛みも和らいで来ましたので、また足裏に照射しました。十分以上経つた頃、びっくりするほど大きなガスが数分おきに二、三回出て、気持ち良くなりました。次に凝つてた後頭部から肩にかけて照射しました。五分から十分経つた頃、又びくりするほどのガスが出来ました。腹を手のひらで圧して見たら、左腹のS字状結腸の部位に小さなダンゴのような少々硬いところを二、三個触れました。そこを照射したら、数分で大きなガスが出来ました。合計、七、八回

ガスが出来ましたが、腹全体が軟らかくなり、なにも触れない平常の状態になりました。

矢張りガス詰まりが原因だったようです。その後も何回か同じ症状を起こしましたが、原因が解けた安心感に加え、照射の要領を会得したこともあって、短時間で症状を消すことが出来るようになりました。最近は、再び腹痛に苦しめられたことを忘れ勝ちな生活に戻ることが出来ましたが、油断大敵と思っています。

私の生き甲斐

主人が病に倒れてから三年近く、不規則な生活を強いられ、胃腸の運動を支配する自律神経のバランスもややもすると乱れ、腹痛の原因になっているのかも知ません。時に気持ちに負けそうになりますが、そんなことでどうする、と打ち消しながら仕事に慰められ人生に立ち向かっています。

私は魔法の健康器の光線治療器を唯一の頼りに、これまで多くの病める人々の治療や主人や家族の治療や自分自身の治療に全身全霊を打ち込んだ日々を過ごしてきました。治療している時だけは、極楽浄土にいる思いがします。私の周りに、私の考え方と同感して下さる方が随分いますが、今でも年々増えていることは感謝、感激の極みです。すると同時に、私の生き甲斐です。

私は自分のことで、多少とも
冷静さに欠けていたのかも知れ

先ず足裏に照射

さり、腹部の診察を様々な姿勢で丁寧にして下さいました。丁

私は自分のことで、多少とも
冷静さに欠けていたのかも知れ

日本療術學會

秋田ビューホテル

平成四年十一月一日

光線療法を併用した 消化器腫瘍の三例



宮城県療術師協会
鈴木マサ子

(四)

消化器腫瘍の診断を受けた二症例に光線療法を行う機会に恵まれ、示唆に富む興味ある知見を得たので報告する。

〔症例〕 48歳 男性 会社
診断 胃ポリープ 経営
起始経過 胃痛、食欲不振、
便秘があり、病院で胃腸の精密
検査を受けたところ、胃に大豆
の大ポリープが三ヶ所見つかり

手術を薦められたが、仕事は忙しいし、手術をするのも恐いのでも、そのまま帰宅して経過を追うことにして、その間、光線療法を行った症例である。

本例は平成2年8月6日に来院した。来院時、上腹部から下腹部にかけて異常に固く、石のようなシコリと圧痛があった。

治療 BDカーボンを使い、五台の治療器で、足裏、上腹部、下腹部、腰、背中に各一時間照射した。本例は最悪の事態を考え慮して時間を長めに照射したが、終わって後、気持ち良く、これは良さそうだ、と言っていた。

なお治療効果の面から毎日照射しなければならないことを話しあ事の関係もあって、翌日からは在宅で治療した。治療には一台の治療器を使い、朝は腹と背中に一時間、夜は足裏と膝に三十分、腹と背中に一時間半以上照射した。なお相当に発汗するので、水分の補給を忘れないよう指示した。

手術を薦められたが、仕事は忙しいし、手術をするのも恐いので、そのまま帰宅して経過を追うことにして、その間、光線療法治った症例である。

10月30日に改めて胃腸の検査を受けたが、きれいな胃で何処も

ADカーボンで、三台の治療器

して貰つてから切れば良かった、
と後悔していた。

(結語)

手術を終えて退院してからは、ADカードボンで、三台の治療器を使って、足裏、肛門、腹部、背中、胸、腰に各一時間の照射を日課にしているが、大好きな酒とウイスキーを飲みながら元気になるが極めて経過は順調である。

める面から有意義なことと考えられる。

起始経過 大学病院で胃の検査の結果、組織検査で高度の異型細胞があり、一週間後に手術の段取りを付けるが、何れにしても速やかに手術ないと手遲

4年8月21日に相談に見えた。平成
れになる、と言われたと、平成
治療 医師には仕事の都合と
いうことにして、同年9月3日

ての応用、患者の免疫系を賦活し抗腫瘍効果を増す免疫療法としての作用、癌毒素の中和などがある。

に入院するまでの一週間、光線器一台で、腹部はBDカーボン、腰部はADカーボンで、一日二回、二時間ずつ毎日照射した。

今回、消化器腫瘍の三例に対し、病院の治療に併用する形で光線療法を行い、それぞれ有効と思われる所見を得たことを報

結果 9月3日に入院、直ぐ

告したが、光線療法の評価につ

に手術を受け胃を全部取つたが、胃に癌はなく、それ以外にも何の異常所見もなく、担当の医師

いっては今後も症例を積み重ねる必要があり、これからも検討を続けたい。

は、癌の予防のために取りまし
た、と言つたそうである。患者
は手術の前にもう一度再検査を

山形市香澄町
山形サナモア治療院

術後に光線療法を行つた乳がんの一例



社団法人 神奈川県療術師会

海渡 一二三

(目的)

乳がんと診断され乳房切除術を受けたが、その際に他の治療（抗癌剤による化学療法や放射線療法など）を受けていない治療経過や転移を指摘されていないことから、早期に発見された一例で、手術の縫合部に生じたケロイドの治療と乳がんの再発予防を目標に光線療法を行い、これまで十年余の経過を観察したので報告する。

(症例)

症例 48歳 女性 主婦
主訴 手術縫合部のケロイド

の治療ならびに乳がんの再発予
防

現病歴 昭和56年2月に乳がんのため左乳房の全摘出術を受けた。退院後、通院で治療を続けていたが、全身の強い倦怠感脱力感、不安感があり、良く風邪を引いて熱を出すなど、体調の優れない状態が続いており、乳がんが再発する不安に脅えていたところに、友人から光線療法をするといすすめられ、手術後三ヶ月を経た昭和56年5月27日に来所した。

来所時、患者は乳がんの再発を極度に恐れており、光線療法による再発予防を特に強く望んでいた。

初診時所見 左乳がん手術後の縫合部の肉芽組織は、赤く隆起し、その表面はデコボコでケロイド状になっており見るからに痛々しかった。また術後の後遺症のため、左手の上下運動や伸展をさせると不自由で、中でも真っすぐ上方に拳上する動作は殆ど出来なかった。なお生來の虚弱体质に加え、胃弱で痩せており、食欲もやや不良であった。

治療ならびに経過 乳がんの再発を積極的に防ぐために、各治療で最も大切なこ

との一つは、年間を通してビタミンDが欠乏しないように常に光線を浴びることに意を用いると共に、カルシウムの不足を引きいて熱を出すなど、体調の優れない状態が続いており、乳がんが再発する不安に脅えていたところに、友人から光線療法をするといすすめられ、手術後三ヶ月を経た昭和56年5月27日に来所した。

来所時、患者は乳がんの再発を極度に恐れており、光線療法による再発予防を特に強く望んでいた。

治療に用いたカーボンは、BとD、AとB、AとAの組み合わせを状態に応じて適宜選択し、同時に二台の治療器を用いて照射した。照射姿勢、照射部位ならびに照射時間は、側臥位で、顔面5分、左右胸部10分、肛門10分、腰10分、膝5分、腹10分、足裏10分、左右背に各5分、次いで仰臥位にして、左肩5分、右肩10分、左右側腹部10分、左右の膝10分、左腋下10分照射した。なお症状、経過に応じて、照射部位を追加したり、照射時間は延長した。

治療を始めてから食欲が増し、活力が出るなど一般状態は著しく改善し、三ヶ月が過ぎた頃には手術の縫合部の赤みが薄れ、

この後も乳がんを予防したいと言ふ強い患者の意志で通院で達成できることを説明し治療を始めた。

その後も乳がんを予防したいと言ふ強い患者の意志で通院で達成できることを説明し治療を始めた。

その後も乳がんを予防したいと言ふ強い患者の意志で通院で達成できることを説明し治療を始めた。

本例は昭和62年より、健常管

理に加え乳がんの再発防止のため、主として自宅で光線療法を続けることにした。その後も時々通院しながら手術後これまで既に10年余を経過したが、現在までの経過はすこぶる順調に推移している。

（考察ならびに結語）

近年、わが国に於いて特に増加が著しいがんに、乳がんと大

事の西欧化の問題を含めてさま

ざまな角度から論じられている

が、これらのがんは地理病理学

的に見て、日照に恵まれた南の

地方で罹病率、死亡率共に低く、

日照時間の短い北で高いと言う

疫学的な特徴が、主にアメリカ

人を対象に行つたガーランドら

の研究によって既に明らかにさ

れている。一方、光線には健康

を増進する作用があり、その一

つにビタミンDを介して免疫機

能を強化する作用のあることが

知られている。この点からガーランドは、乳がんや大腸がんの

発病率が緯度によって異なるの

は、少なくともアメリカ人の場

合は食事の差によるものではなく、

光線によって生成されるビタミ

ンDならびにビタミンDによつ

て代謝が厳密に規制されている

カルシウムの免疫応答調節作用

によって、生体の免疫監視機構

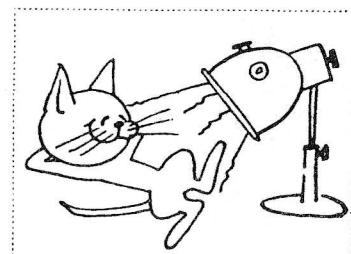
が強化され、発がん遺伝子を除

去することが係わっていると述べている。光医学の視点から、

地理病理学的立場からの研究が期待される。

そんなある朝、目覚めると左の耳の奥でザワザワした音が聞こえ、出勤してからも電話の声が聞きにくかった。その数日後、洗面していく右の耳を押さえると、左の耳が聞こえないことに気が付いた。

☆騷音性難聽



— 治驗例報告 —

が、イマホンを常用したことが原因の難聴で、通常の可聴音よりも強さと持続時間が限度を超えると聴力障害を起こすと言われば騒音性難聴と診断され、治療は困難であり、薬、手術とも効果はない期待出来ないので、すぐイヤホンの使用を止め、自然に治るのを待つしかないと言われた。患者は学生の頃、祖母のカーボンを買いに来たことがあり、光線療法に一縷の望みをいだいて来所したが、光線療法で回復すると約束出来ないこと、陽性反応で一過性には悪くなるかも知れないこと等々、時間を掛け話して治療することにした。

が、イマホンを常用したことが、原因の難聴で、通常の可聴音も強さと持続時間が限度を超えると聴力障害を起こすと言われ騒音性難聴と診断され、治療は困難であり、薬・手術とも効果は期待出来ないので、すぐイヤホンの使用を止め、自然に治るのを待つしかないと言われた。

患者は学生の頃、祖母のかばんを貰いに来たことがあります。光線療法に一縷の望みをいだいて来所したが、光線療法で回復すると約束出来ないことが、陽性反応で一過性には悪くなるかも知れないこと等々、時間を掛け話し治療することにした。

になり、午前中は左耳で相手の声が微かではあるが聞き分けられるが、午後は元の聞こえない状態に戻ってしまうと言つていった。六回目の治療を終えた二ヶ月後の電話で、「一、三メートル離れたテレビの音声が、左耳でも微かだが聞き分けられ、ザワザワした耳鳴り也非常に小さくなり、仕事中も気にならなくなつた」と報告があつたが、翌日から十日間出張するので、治療が途切れれるのが不安だと言つていた。その十二日後に来所した。出張中は動き回っていたが支障なく過ごし、何の手当てもしないのに、一日と左耳の調子が良くなるのをはつきり感じたと言つた。出張を終えて帰る頃には、左耳の耳鳴りがすっかり無くなつているのに気付いて驚いたが、これが体内に蓄積された光線の治療力を促す効果だ、と分かって言つて、左右の耳道を手で交互に塞ぎながら、自己診断では左耳の聴力の九十パーセントは回復したと喜んでいた。

☆前立腺肥大症

は回復したと喜んでいた。
神戸市 ウエノ光療研究所
上野 健太郎氏報告
TEL○七八一三三二一一五五八

症例 73歳 男性
症状 尿意をもよおしても尿が
出にくく、下腹に力を入れて腹
圧を加えても、すぐ出なかつた

症例
尿意をも
73歳 男

療法経過　同時に二台の治療器を使い、BDカーボンを組み合わせて照射した。照射部位は、側臥位で、肛門部（会陰部）30分、下腹部20分、腰15分、喉（二号集光器）10分、膝5分、足裏15分、後頭部5分、次いで仰臥位で、左右肩5分、左右側腹部10分、左右膝外側5分照射した。

患者は治療を終えてから便所

行くように話した。
患者は治療を始めて一ヶ月経った頃から、尿の出が良くなり、今日に至るまで排尿は良好に経過している。そのため病院でも手術は見合わせると言っているとのことである。

り出でても尿続か難く排尿に行き排尿したか何時もより時間がかかり、時に尿が溜ると漏れる失禁状態になった。そのため診察を受けたが、前立腺肥大症と診断され、手術をした方が良い、と手術を薦められた。しかし手術はしたくなかったので、この事を知人に話たら、光線療法を受けて見たらと薦められた。なお腰の左側に痛みがあり、その治療も合わせて依頼された。

尿の出が良くなつたようだと喜んで、これなら続けて様子を見ようと言つことになつたが、たまたま遠方に居住していたため毎日通院するのも大変なので、光線治療器を求めて主として自宅で治療し、時々通院することにした。なおその際、治療は必ず毎日行うこととし、出来るだけ膀胱に尿を溜めないようにするため、トイレには極力頻回に

サナモアカーボンの
類似品にご注意下さい。

た著書「光線療法學」ともども愛用者各位の御信頼を頂き、全国津々浦々まで高い評価を受けておりますことは、皆様方よくご存知の通りであります。

ところが他社製カーボンに「光線療法學」をセットしたり、サンモア ABCDと効果が同じという根も葉もないうたい文句で互換表を添付して販売している業者がいます。もとより、このような道理にもとる行為をする者が何時の世にもいますが、当研究所としては他社製カーボンを使用した場合の効果について一切の責任はもてませんので異々もご注意下さい。

(サンモアカーボンには、製造元イビデン株式会社の商標「B」のマークが必ずついてます。)

サナモア体験談



神戸市長田区腕塚町
島 敏子

サナモアに縁あり
て四十一年

「必ず治る。」と太鼓判を押して
くれたのです。

【体験例二】

長男が十歳の時、肺炎をこじ
らせ肋膜になりましたが、一年間
の照射で完治しました。その後は

私は一人に必死の思いで懸命に
食事が進み、良く眠れるようにな
ったのです。私は真暗なトン
ネルの向こうに小さな灯りが見
えたようで、嬉しくなって先生
に話しましたら「良かっただね。」
と心から言つて下さいました。

その後、光線治療器を購入して
毎日朝夕照射しました。三ヶ月
目には回復が目に見えてはつき
り分かり、五ヶ月で自営業の職
場に完全に復帰し、完治を確信
出来たのです。

十四歳の女子が顔面神経麻痺

主人の病を癒す

サナモアを初めで知ったのは
昭和27年の6月です。主人が神
経衰弱になり、悩む日々を過ご
していました。

診察を受けた医

師は、「直ぐに

は治らないから

です。主人が神

経衰弱になり、

悩む日々を過ご

していました。

昭和27年の6月

です。主人が神

経衰弱になり、

健康はサナモア

光線で



樺原市東坊城町
棟 晴美

主人は二十三歳の頃から、十二指腸潰瘍の再発を何度も繰り返していました。三十六歳になつた昭和六十一年には、春先から胃の具合が悪く、夜中に胃の痛みで目を覚ます日が続きました。主人はいつもの再発と思い、かかりつけの病院で診察を受けましたが、透視でいつも違う影が出たとショックを受けて帰宅しました。大学病院を紹介する言われた主人の落胆は言うまで抱え、どうすれば良いか、主人をどのように勇気づければ良いか、私は途方に暮れました。

神戸に嫁いでいる姉にこの話をしたら、光線療法を薦められ、姉が世話になっているウエノ光線で指導を受けることになりました。その上で入院までの一ヶ月余り、足裏、膝、肩、背中、腹、胃、腰、胃裏と、一回に二時間



神戸市灘区篠原北町
清瀬 陽子

サナモアと私

近く、一日に三回照射しました。入院手術を受けた後で、担当医から、「レントゲンを見て思つた」と話がありました。私が「ここです」と言わなければ分からぬほどでした。退院後も一日に朝夕の一回照射しました。その後の診察でも手術の傷痕が早くきれいに治るのを見て、先生も「この方は珍しい」と驚かれたほどです。主人も光線は良いのだと思つて、毎日、根気よく照射し、今年で五年になります。今の健康は光線療法のお陰と確信しています。五年前の暗い日々を思えば、サナモアは身体にも心にも光を与えてくれたと感謝しています。

昭和五十九年の暮、子宮筋腫の手術は盲腸炎の手術の次に簡単で、二週間で退院できると言

われて手術入院をしました。しかし開腹して思わずことが起きました。超音波検査でも分からなかつたソフトボール大の腫瘍があり、背中側の腹膜に発着して、大出血する恐れがあるため、一旦子宮だけ取つて閉じたのです。

その後に再手術のため再入院しましたが、前回の手術の時の輸血で血清肝炎にかかるつており、肝臓が治るまで手術は見合わせることになりました。丁度、長女の大学受験、長男の高校受験が重なり、病院にいても気が気ではありませんでしたが、入院期間は半年に及びました。

そんな時に実家の母から、光線療法で自宅養生すれば必ず良くなると励まされ、肝臓は治つていませんでしたが退院しました。それからは一日、三回、A D、B Dカーポンで懸命に照射しました。

それからも卵巣囊腫、腹膜腫瘍と次々に発病し、すつかり精神的にも参つてしましましたが、上野先生や母に力づけられ、何とか乗り越えられました。サナモアのお陰で何度も手術すべきところを助けられ、今はすつかり健康になつて働けることを感謝しています。これからも健

サナモア



サナモア 光線協会

趣意書

天地創造の昔から、眞の光、即ち太陽光線は、私たちに限りない恩恵を与えています。サナモア光線療法は、この太陽光線の健康増進、疾病予防および治療効果を利用した治療法です。従つて、目に見える可視光線だけではなく、目に見えないが無くてはならない紫外線や赤外線を目的に応じて適切に放射しなければなりません。

このサナモア愛用者を以て、光線療法の研究を行うと共に、啓蒙普及活動を行つたためサナモア光線協会を設立しました。

サナモア光線協会は、設立の趣旨に賛同戴いた会員にて構成し、季刊紙「健康と光線」を発行します。

サナモア光線協会
医学博士 宇都宮 光明

協会では、会員を募集しております。
入会希望者は、左記宛御申込み下さい。

〒153

東京都目黒区目黒4-6-18

(本紙の無断転用を禁止します。)

サナモア光線協会 TEL(03)3793-1528
三七二一五三二二